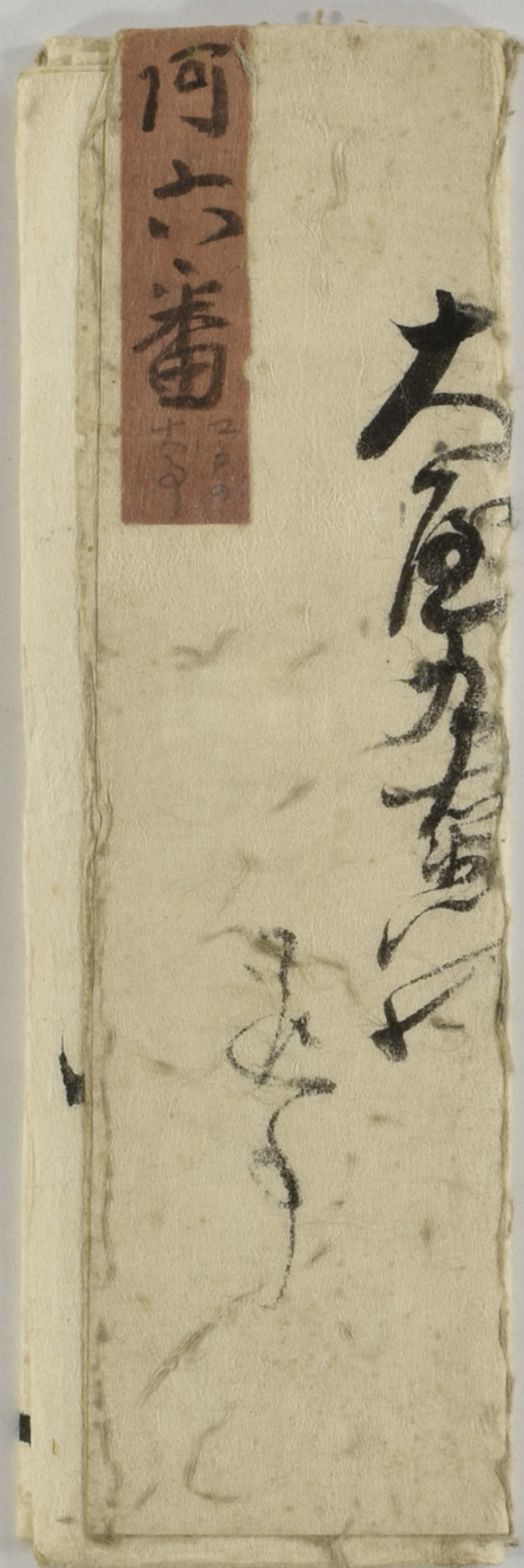




【大谷家文書】 2-6





可又念本師
くもいふにまれもね
まを海星て望人
三花す市てうた
去月宮の星は
し十宮星しと
按見ひも許家来
吾深き事と境を
六形と舊規と高
清池毎夜影交り
出草伝人難儀に
事家来道景述
底焼七海院記
お焼と昭世照に
由是へ入る

時
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

豐稷

是子目五

村松

人馬

墨守

